令和４年度　小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	特定非営利活動法人 ワーカーズわくわく	代表者	理事長 飯塚　陵子
事業所名	わくわくの里	管理者	飯塚　陵子

法人・事業所の特徴	『住み慣れた町でその人らしく穏やかに暮らすことを支える』を理念に柔軟なプランを提供している。訪問体制、看護師による体調管理にも力をいれており在宅生活を安心して過ごせるようサポートをしている。新型コロナ感染拡大防止のための対策強化、地域連携強化も継続して行っている。

書面評価者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	０人	１人	１人	０人	１人	１人	０人	５人	０人	９人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	個別評価項目のわかりにくい点に説明を行い理解度を深めていく。評価期間に余裕をもつ。	新人職員に多少の戸惑いがあったが丁寧に説明していった。	新型コロナ感染拡大の影響もありスムーズに進められない中、工夫をしながら取り組んでいた。	自己評価期間において個々の取り組みを把握し適切な評価を出せるようサポートしていく。
B．事業所のしつらえ・環境	感染状況と社会的判断をふまえながらできる範囲で事業所の様子を伝える努力と工夫をしていく。	わくわくの里だよりやホームページを通じて情報発信をすすめてきた。感染対策としての環境整備も強化した。	できる中で、最大限の努力ができていたことがうかがえる。	玄関周辺の清潔感等、外部からみても好印象を持っていただけるよう取り組む。
C．事業所と地域のかかわり	地域の方とのかかわりについてゴミ出しの手伝いやあいさつなど身近なかかわりを大事にする取組みを行う。	スタッフが常に地域の方々に気を配りかかわってきている。明るい挨拶を心がけている。	来年度新型コロナの縛りが緩くなる中で、どのようにかかわりをもっていくか期待している。	新型コロナの５類移行に伴い、事業所内の受け入れも少しづつ緩和していく。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	自宅訪問が増加しており近隣住民とのスムーズな連携が行えるようスタッフ間での情報共有を強化していく。	情報共有がスムーズにできるよう多様なツールを活用しながら進める事ができた。	利用者のニーズや必要性にきめ細かく対応していると感じる。個別ファイルを活用し新たな情報を共有するとりくみは良い。	訪問要員を強化し地域の中でどう暮らしているかを多くのスタッフが知る機会をもつ。
E．運営推進会議を活かした取組み	感染対策を行いながらできるだけ顔を合わせての運営推進会開催を実行していく。	感染対策をしながら運営推進会議の開催ができた。スッタフを年間で2名にとどまったが同席できた。	スタッフが直接会議の場を見てもらう事は良いと思っている。	会議への参加者が増えるよう調整をしていく。
F．事業所の防災・災害対策	コロナ禍は続く方向ととらえ、机上訓練での情報共有をすすめていく。	洪水計画、災害計画をもとに必要な情報共有を行い検証をすすめた。	新型コロナ感染拡大防止に伴い開催不可はしかたがない。	BCP 対策を完成させ、スタッフ間で情報共有を行う。